

平成 30 年度(2018 年度)セタシジミ肥満度モニタリング

井戸本純一・草野 充

1. 目 的

セタシジミの産卵前の肥満度は近年大きく変動しており、北湖一円の漁場で値に差はあるものの、その増減傾向はほぼ一致している。全湖的な現象と考えられるこの変動をより詳細にとらえるため、2010 年以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において肥満度のモニタリング調査を実施している。

2. 方 法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に 4 本の調査定線を設けた(図 1)。ほぼ毎月、調査用定量桁網(採取幅 8cm、袋網の目開き 10mm)を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同じ方法で肥満度を測定した。

3. 結 果

各定線における肥満度の推移を図 2 に示した。2018 年の肥満度は、前年 11 月からの急上昇を受けて 1 月には平均 3.1%に回復したものの、その後横ばい状態となり、産卵直前の 6 月の平均値は 3.4%にとどまった。しかし、すべての水深で産卵が終了したと考えられる 8 月には平均 2.1%に低下したことから、

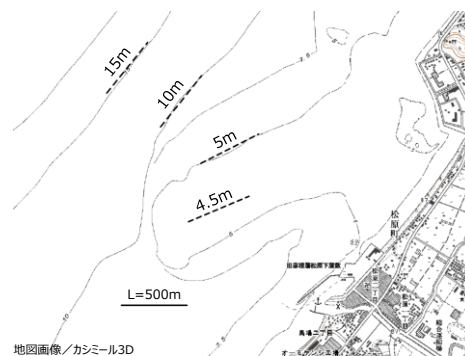


図 1 松原漁場の水深別定線(破線)。

2017 年(6 月 2.1%→8 月 1.5%)と比較してまとまった量の産卵があったと考えられる。

産卵後の肥満度は、15mでは11月に1.5%、10mでは9月に1.4%、5mでは11月に1.4%、4.5mでは10月に1.7%とそれぞれ月別の最低値に並んだ。この時期には漁場内でへい死した貝が散見されており、極端な低肥満度が原因である可能性がある。12月にはすべての水深で肥満度が上昇しはじめたが、3月になっても平均値は2.7%にとどまった。

産卵後の低肥満度やその回復の遅れについては、9月の台風21号以降11月にかけて大発生した大型緑藻(*Microasterias* sp.)の影響が疑われる。

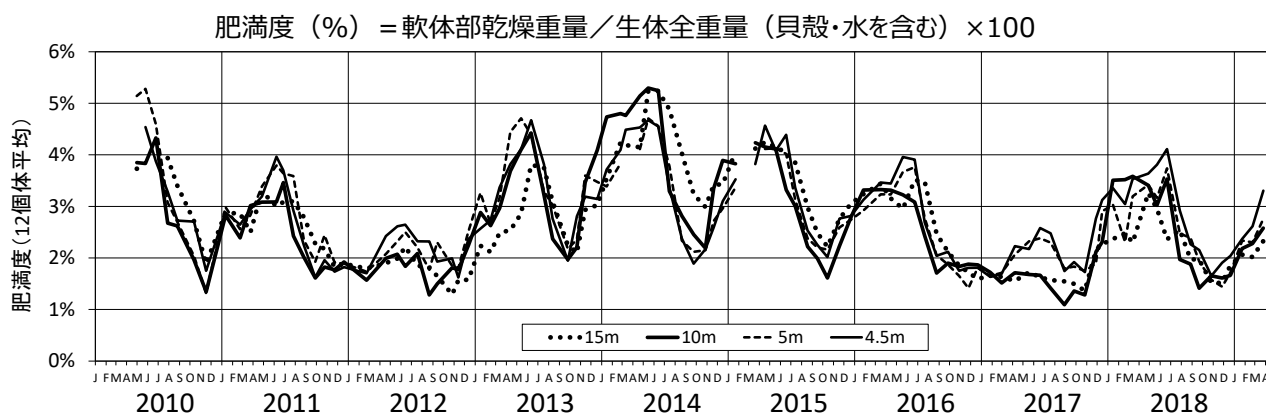


図 2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移。

肥満度(%) = 貝の中身(軟体部)の乾燥重量 / 貝全体の重量(貝殻および内部の水を含む) × 100

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。